【様式1】

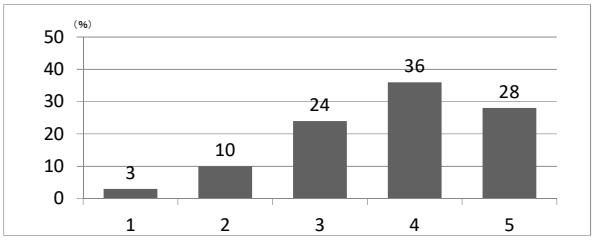
児童数	376	小学校数	20
生徒数	347	中学校数	11
計	723	計	31

令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

奄美市教育委員会

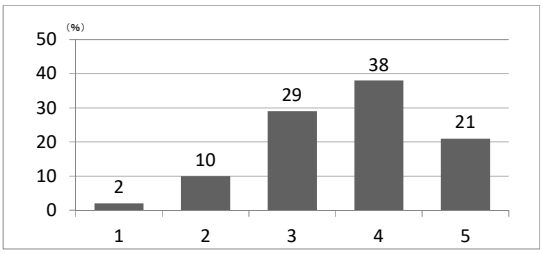
（正答率分布グラフ，課題，改善策）

【小学校】〔国語〕　標準偏差 3.1



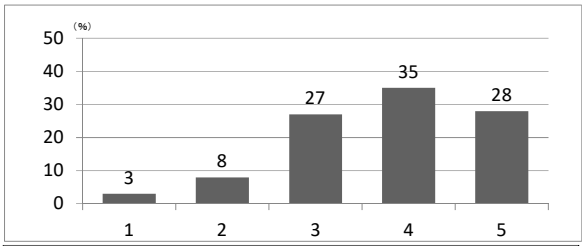
〈課題〉
・4，5段階は64%で，前回より2P低くなった。また，県平均と比べると若干ではあるが，1段階の割合が多い。
・漢字や修飾語，言葉に関することなど，知識・技能の観点に関わる問題で，県平均を大きく下回っており，定着を図る必要がある。
・読むことの内容において，全体の構成を捉えることに課題があるので，事実や感想など，段落ごとの関係を捉えさせる必要がある。

【中学校】〔国語〕　標準偏差 2.9



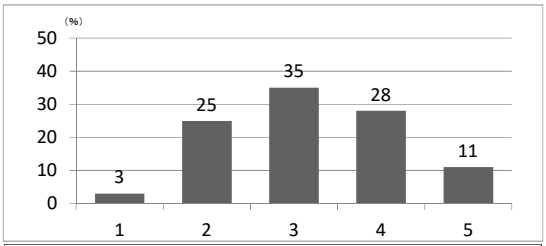
〈課題〉
・前回と比べて,下位層（1，2段階）が大幅に減り，改善が見られる。しかし，上位層(4，5段階)の割合が減っている状況もあり，生徒の実態に応じた授業を展開する必要がある。
・書くことに対する無答率が減ったが，文章の構成を捉え，そのよさを説明することに課題がある。授業において，事実と意見を区別して説明させるなど，相手意識をもたせた活動を充実させる必要がある。

〔算数〕　標準偏差 3.4



〈課題〉
・前回と比べ，上位層（5段階）の割合が3P増えた反面，下位層（1，2段階）の割合が県平均と比べ多い。
・速さの問題では，数直線など多様な方法を用いて数量の関係を捉えさせる必要がある。また，データを2つの観点から表に整理する問題では，表の整理と読み取りを関連付けて指導する必要があ

〔数学〕　標準偏差 3.4



〈課題〉
・前回と比べ5段階の割合が減っていたり，県と比べ中位より少し下（2段階）の層が多いという課題がある。生徒の実態に応じた個に応じた学びを展開する必要がある。
・図形の証明で課題があり筋道立てて考える能力を高めると共に，計算など基礎的な技能を高める必要もある。

【改善策】

①昨年度まで，授業改善，良問への取組，家庭学習の充実の3本柱で取組を行ってきた。授業改善に向けては，指導主事が定期的に学校を訪問し，実態を把握するとともに，「鹿児島学力向上支援Webシステム」の問題の取組については，その取組状況を毎月報告させた。
②これにより，今回の調査結果では，前回と比べ，特に中学校の国語・数学において県差，全国差が大きく改善された。特に，数学は，全領域で最大－9．6ポイントあった県差が，最大－1．4ポイント差となり，改善が見られた。ただ数学については，依然として全領域で県を下回っている。特に，基礎的・基本的な内容の定着，下位層への手立てが課題として挙げられる。同様に小学校算数においても5領域とも県を下回り，低学年からの積み重ねという点で課題がある。このことから，昨年度までの取組について，全般的には効果があったと考えられるが，学習を苦手とする児童生徒への手立て，系統的な指導など，一人一人に目を向けた視点での取組が不十分だったと考えられる。また小学校では結果が出ている学校とそうでない学校で各教科20点ほど差があり，学校間の学力差も課題として挙げられる。また，意識調査でも授業が分からないと回答した児童生徒が非常に多く，併せて学校が楽しくないと感じている児童生徒も多い。
③このため，今後は，全体的な傾向を把握することと共に，児童生徒一人一人の実態等により一層目を向け，児童生徒が主体的に問題追究をしていく授業を展開すると共に児童生徒の「個」への手立てを意識し，児童生徒が「分かった，できた」と実感できる授業ができることを重点的に取り組む必要がある。
（今後の具体的な取組）
○　管理職研修会等で諸調査等の結果分析を多面的に行うことで，多様で具体的に全職員で共有した手立てを行うこと，また児童生徒の誤答傾向を分析し，それらを生かした児童生徒の実態に基づく授業改善を行うことの重要性について指導を行う。また，児童生徒が主体的に問題を追究するために児童生徒の思考の流れ，意識の流れを大切にした授業を行うことを指導し，その取組について確認するために定期的，継続的に学校訪問を行う。
○　下位層及び中位層より少し低い層への手立てを行うことで自己肯定感も高まっていく。そこで，一人一人を大切にする個に応じた学習活動を充実させ，形成的評価を効果的に活用しながら児童生徒を「見つめ，見届ける」取組を行うよう指導を徹底する。
○　また，以下の事項を管理職研修会や学力向上連絡会及び校内研修で指導し，学校訪問の際に改善されているかどうか確認する。
〔小学校〕（国語科）漢字や語句など基礎的内容の確実な定着を図り，文章の構成と内容を関連させ読んだり，構成を工夫して書いたりする指導を行う。
（算数科）表やグラフなど2つの情報を関連付けて考えたり，説明を解釈し，その説明を他の場面で活用する指導を行う。
〔中学校〕（国語科）目的に応じて，内容を読んだり，構成を工夫して分かりやすいように書いたりする指導を行う。
（数学科）下位層への手立てを意識した指導計画，授業展開と図形や数量の関係を筋道立てて考えたり，説明したりする場面がある指導を行う。

【様式1】

児童数	62	小学校数	4
生徒数	45	中学校数	5
計	107	計	9

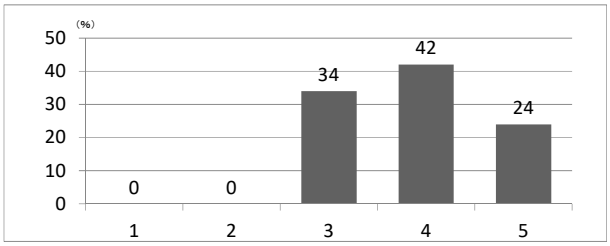
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

瀬戸内町教育委員会

（正答率分布グラフ，課題，改善策）

【小学校】〔国語〕

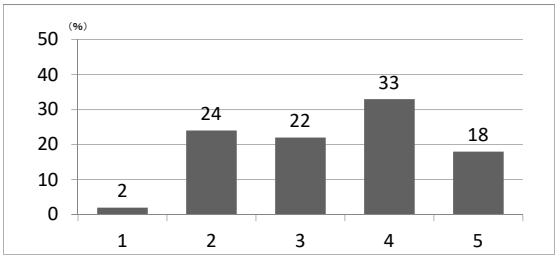
標準偏差	2.3



〈課題〉
・4，5段階は66%となっており，前回の調査と比べて力が向上する結果となった。県平均と比較しても，＋3ポイントという成果を出している。しかし，活用する力は，依然として十分に定着しているとは言えない。
・自分の考えを伝えるため，図やグラフ等を効果的に用いたり，関連付けて自分の考えを書いたりすることに課題がある。

【中学校】〔国語〕

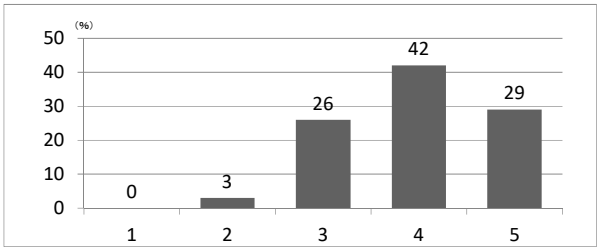
標準偏差	3.2



〈課題〉
・前回と比べて大きな変化は見られない。また，県平均と比べ上位層が少なく，中位層を上位層にどのように伸ばしていくかが課題である。
・文章回答の問いについては無解答率が高いので，個々の実態に応じた指導・支援の必要性が課題である。

〔算数〕

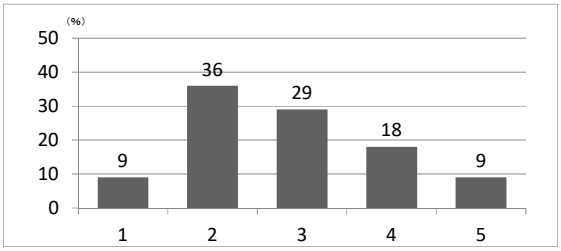
標準偏差	2.6



〈課題〉
・前回と比べ，向上している結果となった。県平均と比べ＋3ポイント上回る状況である。中位層を上位層に引き上げていきたい。
・図や表を観察して，問題の解決に必要な情報を選択したり，自分の言葉で表現したりすることに課題がある。

〔数学〕

標準偏差	4.1



〈課題〉
・前回と比べ，県平均を大きく下回る結果となった。2，3段階の割合が多く，知識及び活用する力ともに十分定着していない。
・数学的に表現したり，数学的に表現された事柄を読み取ったりする問題については，無解答率が高い。

【改善策】

①昨年度まで今週の良問やWeb問題への取組を教育委員会主導で行ってきた。
②今回の調査結果では，前回と比べ，基礎・基本の問題の正答率は県平均と差はなくなり改善されたが，依然として，長文の読解問題や自らの考えを説明する問題が課題として挙げられる。このことから，昨年度までの取組については，基礎的な内容を答える場面では効果があったと考えられるが，応用問題への取組が不十分だったと考えられる。また，前回と比べ標準偏差が大きくなっていることから，きちんと取組を徹底した学校とそうでない学校との間で，成果に差が現れてきているものと考えられる
③このため，今後は，今週の良問やWeb問題を授業に取り入れるなど，以下の事項に重点的に取り組んでいく。

（今後の具体的な取組）
○ 継続して成果が出ていない学校について，諸調査等の結果分析，授業改善に関する指導を行う。さらに指導した内容の改善が図られたかどうかを確認するために継続的に学校訪問を行い，改善がなされるまで指導を徹底する。
○ 中位層や上位層を伸ばす個に応じた学習活動を充実させるため，一人一台端末も積極的に活用しつつ，「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載されている問題に，週1回以上取り組ませるよう指導を徹底する。学習に不安を感じている生徒については，放課後の補充授業を行うなど，積極的に支援する。
○ また，以下の事項を管理職研修会や学力向上対策委員会等で指導し，学校訪問の際に改善されているかどうか確認する。
〔小学校〕（国語科） 相手の立場や状況を踏まえた表現ができるよう，適切かつ効果的に助言する指導を行う。
（算数科） 筋道を立てて考えた過程について，振り返る活動を徹底させる。
〔中学校〕（国語科） 目的に応じて，適切な情報を取り上げる工夫した書き方の指導を行う。また，生徒同士で話し合わせたり，自分の考えを書かせたりする活動を授業に取り入れるよう指導する。
（数学科） 言葉や数，式，表，グラフ等の相互の関連を考えさせる指導を行う。規則性や証明問題については，授業で丁寧に取り扱い，自分の言葉で表現できる力を身に付けさせる。

【様式1】

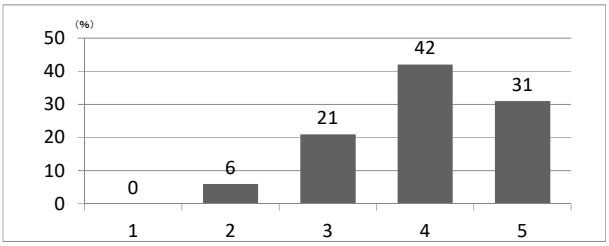
児童数	67	小学校数	6
生徒数	55	中学校数	3
計	122	計	9

令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

龍郷町教育委員会

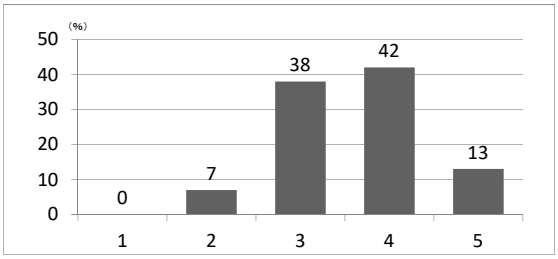
（正答率分布グラフ，課題，改善策）

【小学校】〔国語〕　標準偏差 2.4



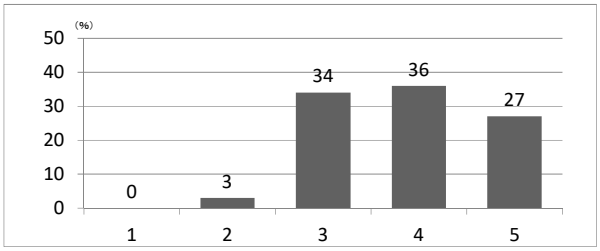
〈課題〉
・4，5段階は73%となっており，県平均と比べると，十分定着できている。一方で，目的に応じて文章と図表と結び付けて必要な情報を見付けたり，目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約する力が十分に定着しているとは言えない。
・目的や意図・理由とを関連付けて思考・判断・表現することに課題がある。

【中学校】〔国語〕　標準偏差 2.3



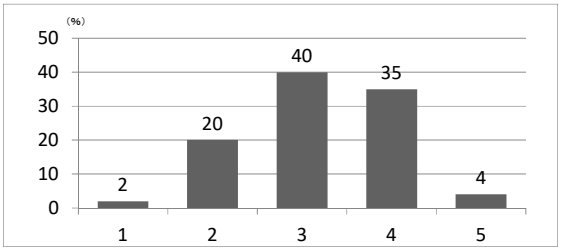
〈課題〉
・前回と比べて下位層の割合が少なくなり，全体的に学力が定着してきている。また，県平均と比べ上位層が少なく，中・上位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
・テキストから根拠を整理して作者の見方・考え方を捉えることや理由を付けて自分の考えを明確にするための学習指導の工夫が課題である。

〔算数〕　標準偏差 2.7



〈課題〉
・4，5段階は63%となっており，県平均と比べると，十分定着できている。一方で，複数の要素が入り込んだ課題と既習事項とを関連付けて活用する力が十分に定着しているとは言えない。
・小数を用いた割合を他の数値に活用したり，基準量と比較量との対応関係について説明したりすることに課題がある。

〔数学〕　標準偏差 2.9



〈課題〉
・前回と比べて下位層の割合が少なくなり，全体的に学力が定着してきている。また，県平均と比べ上位層が少なく，中・上位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
・数学的に説明したり，数学的に表現された事柄の特徴を捉えたりする問題については，正答率が低い。

【改善策】

昨年度まで，学習指導で実現したい3つの場面として，①導入「自らの問いをもつ」②展開「友達との協働解決」③終末「目標達成の実感・認め合い」を設定し，各学校の授業や活動において共通設定・共通実践してきた。

これにより，今回の調査結果では，下位層の割合が少なくなり，学力の定着が見られている。一方で，依然として，目的や意図・理由と関連付けて思考・表現したり，既習事項と比較して数学的な事象の特徴を捉える力が課題として挙げられる。このことから，昨年度までの取組については，学習指導の基本的な考え方を統一して共通実践することで学力を定着させた面では効果があったと考えられるが，目的や理由を明確にしながら比較・関連付けなどの思考力・判断力・表現力等を発揮する面や自分の理由や根拠を明確にして自分の考えを創り出す面では取組が不十分だったと考えられる。また，県平均と比べ標準偏差が小さくなっていることから，すべての学校で比較的に差がなく，取り組んできているものと考えられる。

このため，今後は，①目的や視点を明確にし，比較・関連付けなどの思考活動を充実させること②授業の中で一番大切だったことを選択・表現する振り返りの設定③小学校低学年期から発達の段階に合わせた思考活動や振り返りを取り入れることなどを重点的に取り組んでいく。

（今後の具体的な取組）

○ 授業改善において，授業の具体的な場面まで学習指導を具体化するために成果の上がっている学校の取組をモデルにする。
○ 教職員の授業づくりや授業研究に対する力量形成について，県や事務所の指導助言も積極的にもらう。
○ 小中連携において，子どもの事実に基づいた授業研究（IR研修）を通して，目指す子ども像や身に付けたい資質・能力を子どもの具体的な姿の水準で共有し，自校の改善策へ生かす取組を充実させる。
○ 一人一台端末を積極的に活用し，学校における学習と自宅学習とをつなぎ，家庭における学習習慣の向上を目指す。
○ また，以下の事項を管理職研修会や教務主任研修会等で指導し，学校訪問の際に改善されているかどうか確認する。

〔小学校〕（国語科） 目的や相手に合わせて理由を付けたり，伝える内容の構成を工夫したりしながら自分の考えをもとに学び合う場を取り入れて実践していく。
（算数科） 数学的事象を比較・関連付けることから，見通す（解決の見通し，方法の見通し）段階の指導方法を改善していく。
〔中学校〕（国語科） 目的や状況に応じて，適切な情報を読み取り，自分の考えを明確にするための言語活動や単元づくりを実践していく。
（数学科） 数学的な表現を通して，既習事項と関連付けながら自分の考えを伝えたり，他者の考えを解釈したりしながら学び合う場を取り入れていく。

【様式1】

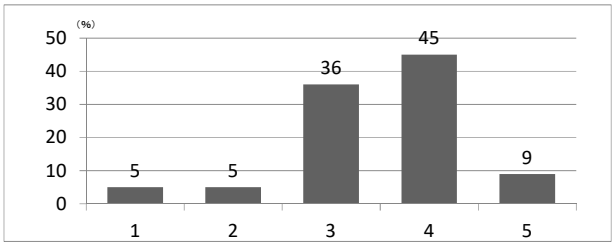
児童数	42	小学校数	2
生徒数	50	中学校数	1
計	92	計	3

令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

喜界町教育委員会

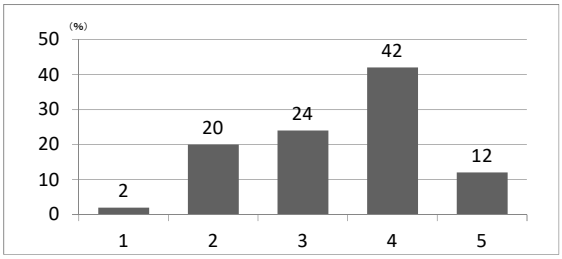
（正答率分布グラフ，課題，改善策）

【小学校】〔国語〕　標準偏差 2.6



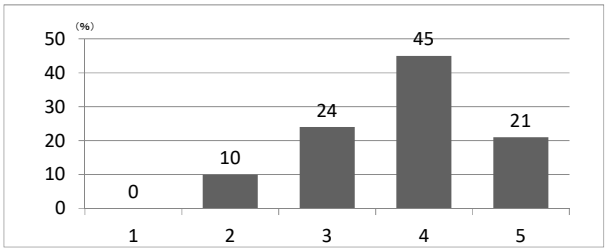
〈課題〉
・4，5段階は54%となっており，前回と比べ5段階の割合が減少しており，県平均と比べてみても5段階の児童が少ないことから，4段階からどのように引き上げていくかが課題である。
・文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けて読むことや，目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約することに課題がある。

【中学校】〔国語〕　標準偏差 3



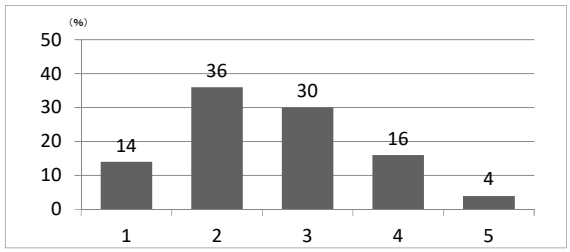
〈課題〉
・4，5段階は54%となっており，前回や県平均と比べてみても4，5の生徒が少なく，2，3の生徒が多い傾向にあるため，知識及び技能，思考力・判断力・表現力等が十分身に付いていない。
・書いた文章を互いに読み合い，文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり，助言をしたりして，自分の考えを広げていくことに課題がある。

〔算数〕　標準偏差 3



〈課題〉
・4，5段階は66%となっており，前回と同様の結果ではあるが，県平均と比べてみると，5段階の児童の割合が少ない。中・上位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
・複数のデータから項目間の違いに着目し，データの特徴や傾向を読む取ることに課題がある。

〔数学〕　標準偏差 3.6



〈課題〉
・県平均と比べ，4，5段階の生徒が極端に少なく，1，2段階の生徒が多いことから，基礎的・基本的な知識や技能が定着しておらず，下位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
・基礎･基本の定着を図りながらも，事柄が成り立つ理由を構想させたり，根拠を明確にして説明できるようにするところに課題が

【改善策】

①昨年度まで，良問による今週の一問の実施や一人一研究授業の完全実施による授業改善への取組などを行ってきた。
②これにより，今回の調査では，前回と比べ，小学校においては1，2段階の児童が減り3，4段階に伸ばすことができた。一方で，中学校においては，依然として5段階分布の傾向に変化が見られなかった。また，新たに小学校・中学校において5段階の児童生徒が県平均と比べ少ないことが課題である。このことから，昨年度までの取組については，小学校においては，全校体制による今週の一問への継続した取組によるの面での基礎・基本の定着には，若干の効果があったと考えられるが，小学校・中学校における良問への取組後の，児童生徒一人一人が分かるまで，できるまでの継続した指導の取組が不十分だったと考えられる。また，中学校においては，基礎・基本の定着が不十分なため，良問への取組への成果につながらなかったと考えられる。
③このため，今後は，見届けの徹底，基礎･基本の定着に向けた継続的な取組など，以下の事項に重点的に取り組んでいく。

（今後の具体的な取組）
○ 継続して成果が出ていない学校について，諸調査等の結果分析，授業改善に関する指導を行う。また，確実に指導した内容の改善が図られたかどうかを確認するため継続的に学校訪問を行い，改善がなされるまで指導を徹底する。
○ 中位層や上位層を伸ばす個に応じた学習活動を充実させるため，一人一台端末も積極的に活用しつつ，「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載された問題に，週1回以上取り組ませるとともに，基礎・基本の定着に向けた指導を徹底する。
○ 週時程の工夫を行うなどして，基礎・基本の確実な定着や見届けの時間を確保するよう指導を徹底する。
○ また，以下の事項を管理職研修会や教務主任研修会等で指導し，学校訪問の際に改善されているかどうか確認する。
〔小学校〕（国語科） 文章中に用いられている図表などが，文章のどの部分と結び付くのかを明らかにした上で，文章と図表などの関係を捉える指導を行う。
（算数科） グラフを読み取る際に，どの部分に着目したかなどを説明する活動を徹底させる。
〔中学校〕（国語科） 読み手は，書き手の目的と意図を理解した上で，具体的な部分や事柄を取り上げ，生徒同士が助言し合うよう指導を行う。
（数学科） 事柄が一般的に成り立つ理由を，構想を立てて説明する場面を設定し，文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるよう指導を行う。

【様式1】

児童数	90	小学校数	5
生徒数	94	中学校数	6
計	184	計	11

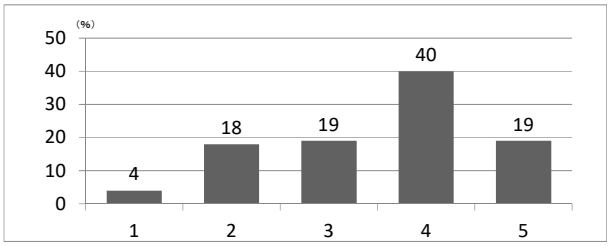
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

徳之島町教育委員会

（正答率分布グラフ，課題，改善策）

【小学校】〔国語〕

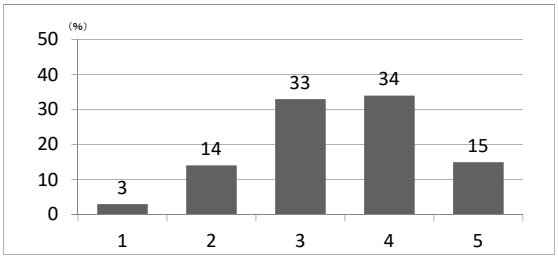
標準偏差	3.2



〈課題〉
・1，2段階が22%で，県と比べると10P程度高い特徴がある。漢字や修飾と被修飾の関係といった基礎的な問題の正答率が低いことから，知識及び技能の力が十分に定着しているとは言えない。
・5段階が19%で，県と比べると8P低い特徴がある。「目的や意図に応じて，自分の考えの理由を明確にし，まとめて書くこと」といった内容等の正答率が低く，また無答率も高いことから，書くことに課題がある。

【中学校】〔国語〕

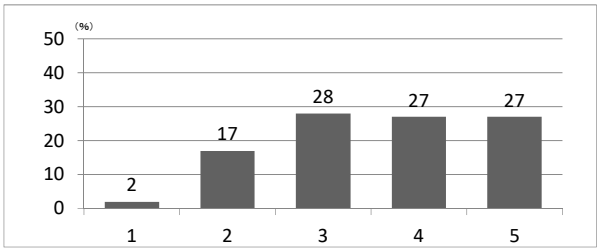
標準偏差	2.9



〈課題〉
・3段階の正答率分布が一番多いことから，中・上位層を増やしていくことが課題である。
・4，5段階が49%で，県よりも11P低い特徴がある。「自分の考えを書く」問題については，無解答率が高いことから，表現に関する内容に依然として課題がある。

〔算数〕

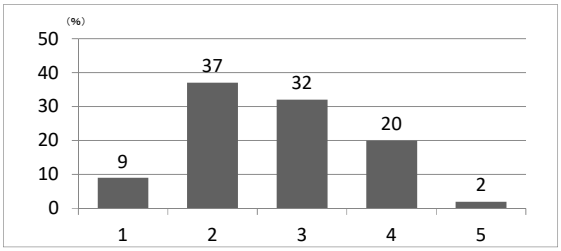
標準偏差	3.8



〈課題〉
・1，2段階が19%で，県と比べると9P高く，また，知識及び技能の正答率も県よりも5%低いなど，基礎的な力が十分に定着しているとは言えない。
・3段階の正答率分布が一番多いことから，上位層を増やしていくことが課題である。特に，記述する問題の無解答率が高いので，考え方や解決方法などを説明する力を高めていく必要がある。

〔数学〕

標準偏差	3.6



〈課題〉
・2段階の正答率分布が一番多く，基礎的な力が十分に定着しているとは言えない。
・4，5段階が22%で，県よりも17Pも低い特徴があり，特に，「数学的に説明する」問題については，無解答率が30%以上であり，考えを説明・記述することに課題がある。

【改善策】

①昨年度から，活用問題を中心とする演習問題への取組状況を毎月教育委員会に報告するようにしてきた。
②しかし，今回の調査結果では，依然として県の平均正答率に追い付けていない現状が見られる。評価の観点における正答率を見てみると，いわゆる活用に関する問題だけではなく，知識に関する問題についても課題があることが分かった。また，学校別の結果から，正答率が大きく向上している学校がある。それらの学校については，一学期の学校訪問や校内研修等から，基本的な学習過程を共通理解し，全職員が同じ方向を向き，日々の授業改善に取り組んでいることがうかがえる。
③このため，今後は，本町の児童生徒の実態に応じた演習問題に取り組ませるともに，授業においてもポイントを明確にした授業づくりに取り組む。

（今後の具体的な取組）
○ 本町の実態に応じた演習問題に取り組ませる。活用問題を中心としながらも，児童生徒の実態によっては個別に問題を与える等，個に応じた演習問題に取り組ませるようにする。また，毎月提出するチャレンジ指数の結果から，取組状況に課題がある場合は，改善がなされるまで指導を徹底する。
○ 「分かった」「できた」という思いを実感させるために，1単位時間の「確かめ・見届け（終末段階）」の指導を充実させていく。「確かめ，見届け」の過程は，10分間の時間を確実に確保するとともに，学習のまとめを児童生徒の言葉で書かせたり，習熟を図る場を設けたりするよう指導を徹底する。
○ 児童生徒の学びが学校だけで完結しないように，授業では，考えを深め学びの足跡となるノート指導を充実させていく。そのためには，児童生徒の理解や思考を助ける構造化された板書も必要となる。管理職には，毎日授業を参観すること，その際，ノート指導及び板書については，重点的に指導するように働きかけていく。
○ 以下の事項を管理職研修会等で指導し，学校訪問の際に改善されているかどうか確認する。
〔小学校〕（国語科） 指定された条件の中で，目的に応じて自分の考えの理由を明確にし，まとめて書く活動を徹底させる。
（算数科） 論理的に考えたことを，筋道を立てて説明する活動を徹底させる。
〔中学校〕（国語科） 自分の考えをもち，相手に効果的に伝わるように書く活動を徹底させる。
（数学科） 説明すべき事柄について，その根拠と成り立つ事柄を示して理由を説明する活動を徹底させる。

【様式1】

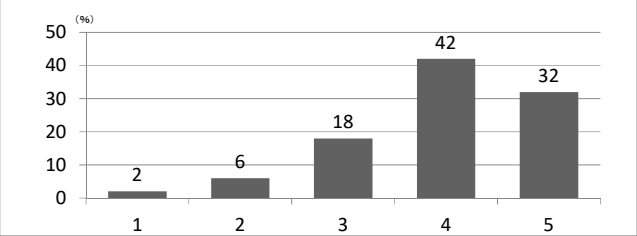
児童数	50	小学校数	4
生徒数	58	中学校数	3
計	108	計	7

令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

天城町教育委員会

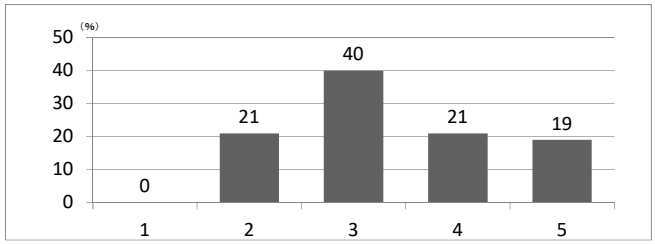
（正答率分布グラフ，課題，改善策）

【小学校】〔国語〕　標準偏差 2.8



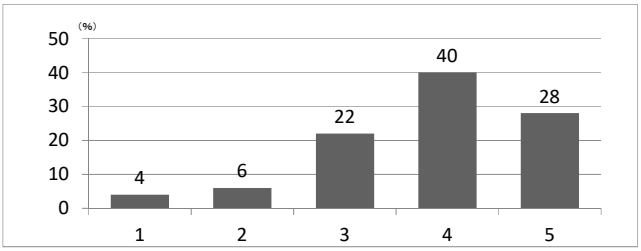
〈課題〉
・上位層の割合が多く，正答率は県平均を大きく上回り，前回の調査結果より良好な結果となった。今後は，1，2段階の児童の基礎・基本の力を付けていく取組が必要である。
・文章と図表等の資料を結び付けて，必要な情報を読み取ることに課題がある。

【中学校】〔国語〕　標準偏差 2.9



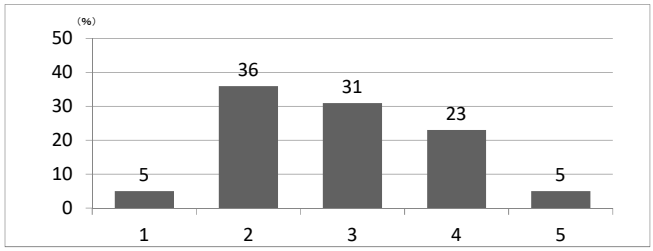
〈課題〉
・前回と比べて上位層がやや増加してきた。今後は，2，3段階の生徒をどのように伸ばしていくかが課題である。
・「話すこと・聞くこと」の領域について，話合いの話題を捉えたり，自分の考えをもって分かりやすく伝えたりすることに課題がある。
・自分の考えをまとめて記述することに課題がある。

〔算数〕　標準偏差 3.6



〈課題〉
・上位層の割合が多い結果となった。正答率は県平均とほぼ変わらず，前回と同じような結果となった。今後は1，2段階の児童が10%みられることから，基礎・基本の徹底を図る必要がある。
・求め方を説明したり，自分の考えを数式や言葉を使って記述したりすることに課題がある。

〔数学〕　標準偏差 3.7



〈課題〉
・前回と比べて，1，2段階の割合は減ってきてはいるが，それでも40%以上の割合を占めている現状がある。既習事項の定着を図るなど，基礎・基本を定着させるための徹底した取組が必要である。
・数学的に表現された事柄を読み取るなど，自分の考えを表現する力が十分に身に付いていないことが，大きな課題である。

【改善策】

①昨年度まで，本町の学力の現状と課題から，町内全ての学校において「天城町授業づくりの目」を意識した授業改善，個々の実態に応じた「良問への取組」，家庭学習の習慣化を強化した「家庭学習の充実」の三点を重点とし，学力向上に取り組んできた。また，各中学校区の小中連携の充実に努めてきた。
②これにより，授業の中で「学んだことを自分の言葉でまとめる」ことを各学校において共通理解を図り，徹底してきたことから，児童生徒の書く力が身に付きつつある。その一方で，今回の調査では「知識・技能」の観点が県平均よりも低いという傾向が見られた。各学校において良問への取組が充実してきてはいるが，思考・表現を問う問題に偏っている傾向が見られ，個々の実態に合ったものとなっていないという課題が浮き彫りになってきている。また，家庭学習においては「質」と「量」が，小学校と中学校の間に大きな差があることが課題となっている。
③上記の状況から，今後も①で示した三つの重点項目を町内全校，全職員に意識させ学力向上に努めていく。そして，自校の取組を充実させつつ，小中連携をしっかりと図りながら，以下の事項に重点的に取り組んでいく。

（今後の具体的な取組）
○ 教職員一人一人に「授業充実の3ポイント（目標の明確化，山場の工夫，確かめ・見届け）を踏まえた授業」と「授業を振り返る際，『子どもが何を学んだか』を自ら書くことができる授業」を徹底させていく。そのために，各学校では「管理職と一緒に授業参観」や「一人一授業の公開化」など工夫した取組ができるよう指導し，学校訪問等において見届けを行っていく。
○ 「良問への取組」をさらに個々の実態に応じたものにしていくために，下位層の児童生徒には，基礎・基本の定着を図る問題を徹底して取り組ませ，中位層・上位層の児童生徒には，Web問題や過去問等の演習問題に多く取り組ませていくよう指導を行う。さらに，児童生徒が取り組んだ良問への見届けを徹底するよう指導していく。
○ 小中連携部会を強化し，校種の異なる視点からの助言等に基づく授業改善を充実させるとともに，家庭学習の習慣化（自学学習の取組も含め）に向け，小中学校が一体となった取組を推進できるよう指導していく。

〔小学校〕（国語科） 目的や意図に応じて自分の考えを書かせたり，条件を加えた記述文を普段の授業で取り組ませたりする指導を行う。
（算数科） グラフや資料の読み取りから共通点や相違点を見いださせる指導の充実を図り，考えを整理して，記述させるよう指導を行う。
〔中学校〕（国語科） 授業において話合いや議論の場を多く設定したり，目的に応じて発言させ，他者の考えと比較させながら聞いたりする指導を行う。
（数学科） 式や図など多様な表現様式を関連させたり，実際の操作を通して理解させたりする指導を行う。

【様式1】

児童数	66	小学校数	8
生徒数	74	中学校数	3
計	140	計	11

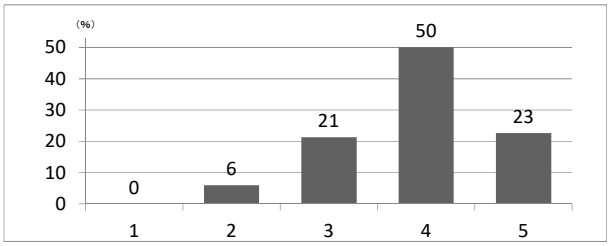
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

伊仙町教育委員会

（正答率分布グラフ，課題，改善策）

【小学校】〔国語〕

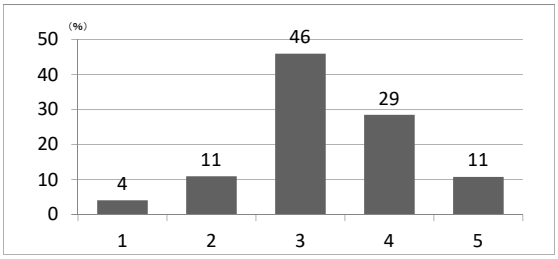
標準偏差	2.5



〈課題〉
・前回と比べ，4段階は21P増加しているが，5段階は12P減少している。また，県平均と比較すると，「読むこと」の領域が4Pほど低い傾向が見られる。
・目的に応じ，文章と図表を結び付けて，必要な情報を見付けたり，要約したりすることに課題がある。

【中学校】〔国語〕

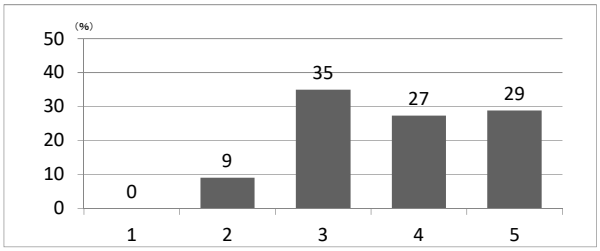
標準偏差	2.7



〈課題〉
・前回と比べ，5段階が20P減少している。また，県平均と比べ中間層が多く，この層を上位層へどれだけ伸ばせるかが課題である。
・話合いでも読み書きでも，質問の意図を捉えて答える問題の誤答が多く，情報の的確な把握に課題がある。

〔算数〕

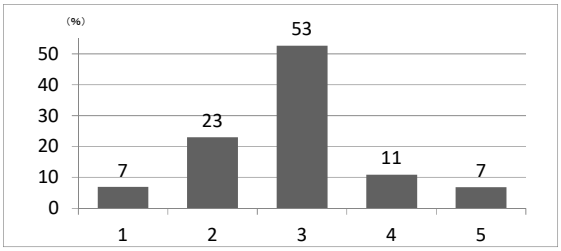
標準偏差	3.1



〈課題〉
・前回と比べ4段階が10P減少し，3段階が9P増加している。県平均と比べ「C変化と関係」の領域が4Pほど低い傾向が見られる。
・一定の速さから道のりと時間の関係を考察したり，場面から数量の関係を除法の式に表し，計算をしたりすることに課題がある。

〔数学〕

標準偏差	3.3



〈課題〉
・前回と比べ，4，5段階が27P減少し，3段階の割合が多くなった。特に，知識・理解の観点で十分定着が図られていない。
・文字式や一元一次方程式，錯角と2直線の位置関係など，原理原則の理解と，それを用いた説明に課題がある。

【改善策】

①昨年度まで，基礎･基本の定着を中心として演習問題の継続的な取組や町独自の問題作成と実施，学び合いを重視した授業改善などに取り組んできた。
②これにより，今回の調査結果では前回と比べ1，2段階の児童生徒が減り，基礎的知識や技能を伴う問題の正答率も上がり，一定の改善が見られた。一方で，思考･表現を伴う問題の正答率は依然として低く，思考力･表現力等を育成する授業改善等の面では取組が不十分だったと考えられる。また，前回と比べ算数・数学では標準偏差が大きくなっていることから，取組が徹底できた学校とそうでない学校との間で，成果に差が表れているものと考えられる。
③このため，今後は，演習問題の取組状況の確認・見届けの徹底や思考力・表現力等を育成する具体的な授業改善の実施など，以下の事項に重点的に取り組んでいく。
（今後の具体的な取組）
○ 演習問題の継続的な取組について，積み重ねがなされているか全学校の実態を定期的に把握し，継続した取組が難しい学校には学校訪問を行い，具体的な解決方法等について指導と，見届けを行う。
○ 思考力・判断力・表現力等を育成する学習活動を充実させるために，1人1台端末を積極的に活用し，1授業1人1表現時間を意識した授業展開の工夫を促し，具体的にどのような表現を行ったのか，軌跡を記録させるようにする。
○ また，以下の事項を各種研修会等で指導し，学校訪問の際に改善されているか確認する。
〔小学校〕（国語科） 相手の意図に沿った返事や意見が述べられるように，相手の質問の意図を確認したり，答えるときのポイントを共有したりするなど適切な発言の仕方について具体的な指導を行う。
（算数科） 解答を導き出した過程について筋道を立てて説明したり，質問をしたりする場面を重視する。その際，児童が一人一台端末を活用 したり，板書をもとに具体的に話し合える場の工夫を積極的に行ったりする。
〔中学校〕（国語科） 目的に応じて，情報を収集し，適切な条件でまとめる場を積極的に設定し，モデル文を示しながら具体的な書き方の指導を徹底する。
（数学科） 課題解決の中で，用語や原則など重要な言葉を丁寧に指導し，言葉や数，式，表，グラフ等を用いて筋道立てて説明させる場を充実する。

【様式1】

児童数	57	小学校数	4
生徒数	53	中学校数	2
計	110	計	6

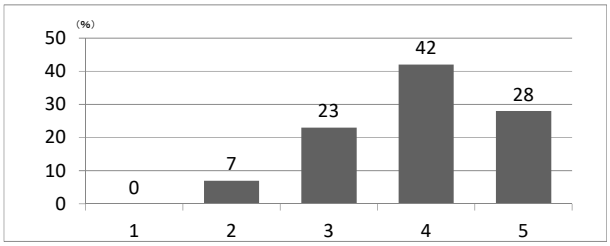
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

和泊町教育委員会

（正答率分布グラフ，課題，改善策）

【小学校】〔国語〕

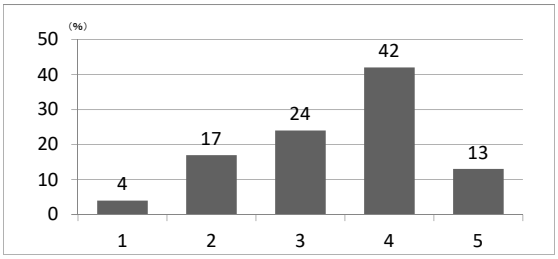
標準偏差	2.5



〈課題〉
・4，5段階は70%となっており，前回と比べて大幅に増えており，どの領域においても，概ね活用する力が付いてきている。
・目的に応じ，話の内容が明確になるように構成を考えて話したり，文章と図表を結び付けながら必要な情報を見つけ，書いたりすることに課題がある。

【中学校】〔国語〕

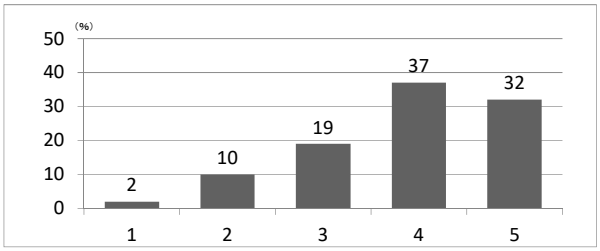
標準偏差	2.9



〈課題〉
・前回と比べて4，5段階が減り，3段階が増えている。また，2段階は前回とほぼ変わっていないので，全体的に底上げを図る必要がある。
・相手の意図する内容を正確に読み取れていなかったり，読み取り方が不十分であったりと課題が見られる。

〔算数〕

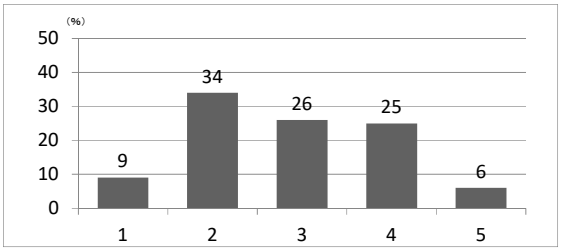
標準偏差	3.5



〈課題〉
・県平均と比べ4，5段階は変わらないが，2段階の児童が多く，底上げが必要である。
・複数の図形を組み合わせたり，様々なデータを比較したりしながら，構成要素やその特徴を捉えて記述することに課題がある。

〔数学〕

標準偏差	3.9



〈課題〉
・前回と比べ4，5段階が減り，下位層が多い。知識及び活用する力が十分に定着していない。
・領域では，「数と式」，観点では「数学的な技能」の定着が不十分である。知識及び技能が，きちんと身に付いていない現状がある。

【改善策】

①昨年度まで，授業充実の3ポイントを意識した授業改善と良問への計画的な取組を行ってきた。町管理職研修会や学力向上研修会，各学校での授業研修会等で取組を推奨してきた。また，自分の考えを書く（書かせる）ことを意識した授業づくりを全ての学校で実践することを共通理解し，研究・実践を積み重ねてきた。
②これにより，今回の調査結果では，前回と比べ，小・中学校ともに「書くこと」の領域について改善が見られたが，依然として，自分の考えを整理して話したり，相手に分かりやすく根拠をもって説明したりする表現力の面が課題としてあげられる。このことから，昨年度までの取組については，「自分の考えや意見を書く」ことの面では効果があったと考えられるが，「相手に分かりやすく表現する」ことの面では取組が不十分だったと考えられる。また，前回と比べ標準偏差が大きくなっていることから，きちんと取組を徹底した学校とそうでない学校との間で，成果に差が現れてきているものと考える。
③このため，今後は，授業改善と良問への計画的な取組を実践テーマに掲げ，各教科において書く活動を取り入れながら，その内容について指導を行う。具体的には，結論を導き出す根拠（理由）を当該教科の見方・考え方に照らしながら書けるようにするなど，以下の事項に重点的に取り組む。

（今後の具体的な取組）
○ 継続して成果が出てない学校について，大島教育事務所と連携しながら，諸調査等の結果分析，授業改善に関する指導を行う。また，きちんと指導した内容の改善が図られたかどうかを確認するため継続的に学校訪問を行い，改善がなされるまで指導を徹底する。
○ 中位層や上位層を伸ばす個に応じた学習活動を充実させるため，1人1台端末も積極的に活用しつつ，「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載された問題に，週1回以上取り組ませるよう指導を徹底する。
○ また，以下の事項を管理職研修会や教務主任研修会等で指導し，学校訪問の際に改善されているかどうかを確認する。
〔小学校〕（国語科） 相手意識と目的や場面に応じた適切な表現の仕方や文章と図表とを結び付けて表現する活動ができるよう指導を行う。
（算数科） 筋道を立てて考え表現する活動において，数学的な見方や考え方を観点にした記述ができるよう指導を徹底させる。
〔中学校〕（国語科） 場面や目的に応じて適切な読むことや文脈に即して適切な情報を取り上げて書くことの指導を繰り返し行う。
（数学科） 身に付けなければならない数学的技能の反復練習と言葉や数，式，表，グラフ等の相互の関連を考えさせる指導を行う。

【様式1】

児童数	45	小学校数	5
生徒数	61	中学校数	2
計	106	計	7

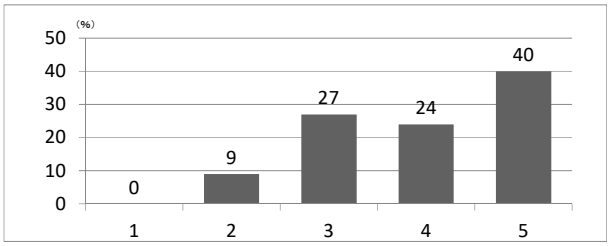
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

知名町教育委員会

（正答率分布グラフ，課題，改善策）

【小学校】〔国語〕

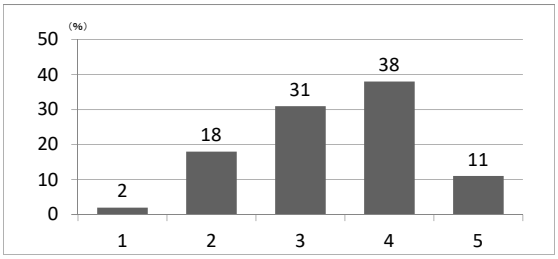
標準偏差	3.0



〈課題〉
・県平均と比べると，4段階の児童の割合が少なく，3段階の児童の割合が多くなっている。中位層の児童を伸ばし切れていない現状がある。
・目的に応じ，文章と図表等を結び付けながら，筆者の要旨をまとめたり，自分の考えを書いたりすることに課題がある。

【中学校】〔国語〕

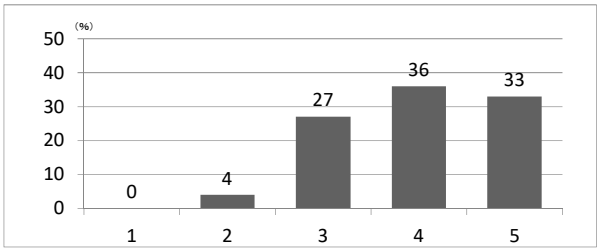
標準偏差	2.8



〈課題〉
・前回と比べて，4，5段階の生徒の割合が約19%減っている。県平均と比べ，上位層が少なく，課題が大きい。
・県平均と比べ，文章回答の問いの無解答率が高いので，構成，記述，推敲等の場面において，示された条件に沿って書く学習を積み重ねる必要がある。

〔算数〕

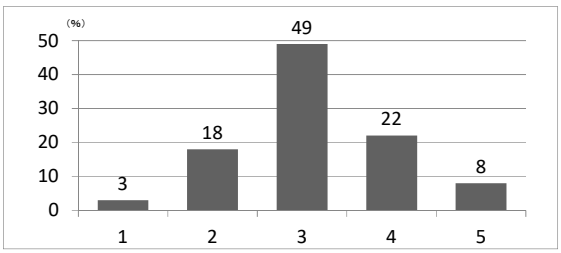
標準偏差	3.0



〈課題〉
・県平均とほぼ同じ結果となっている。前回と比べて，2段階の児童が11P減り，3段階の児童が7P増えている。
・複数のデータを比較し，示された特徴を読み取り自分の考えを記述することや，計算手順の説明を解釈し，考えの理由を記述したりすることに課題がある。

〔数学〕

標準偏差	3.1



〈課題〉
・県平均と比べ，上位層の生徒の割合が少ない。生徒全体の約半数が中位層であることから，3段階の生徒を4，5段階に引き上げていくための指導方法改善が必要である。
・数学的な表現を用いて，データの傾向や図形の性質について説明することができず，無解答の割合が高い。

【改善策】

①昨年度まで，演習問題の取組向上のため，学力向上「知名チャレンジ」の取組を行ってきた。年間計画を作成し，計画に沿って授業における補充指導や見届けの場面での1問チャレンジ，家庭学習の取組等を継続してきた。
②これにより各学校の演習問題や鹿児島学習定着度調査過去問題への積極的な取組が見られるようになり，今回の調査結果では，前回と比べ，小学校の平均正答率が国語・算数ともに県・全国平均を上回る結果となった。一方，中学校は国語・数学ともに県・全国平均を下回る結果となった。このことから，昨年度までの取組については，小学校においては，学級担任が積極的に演習問題に取り組ませ，思考力・判断力・表現力等の育成に力を入れていたため，児童の思考力・判断力・表現力等の数値の向上が見られたと考えられる。しかし，中学校では教科担任によって取組が不十分だったため，生徒によって，思考力・判断力・表現力等の定着に差が生じ，中位層・下位層の生徒が応用的な問題に対応できず，あきらめてしまうという状況が生じていると考えられる。
③このため，今後は，演習問題の取組向上だけでなく「演習問題の取組と授業改善」の両輪の取組を目指して，以下の事項に重点的に取り組んでいく。

（今後の具体的な取組）
○ 継続して成果が出てない中学校について，大島教育事務所と連携しながら，校内研修や計画学校訪問，コアスクールプロジェクト校内研修等の機会を活用して，自校の結果分析，授業改善に関する指導を行う。また，きちんと指導した内容の改善が図られたかどうかを確認するため継続的に学校訪問を行い，改善がなされるまで指導を徹底する。
○ 個に応じた学習活動の充実のため，本町で導入しているAIドリル「キュビナ」を1人1台端末を用いて授業の中で積極的に活用するよう指導を継続する。
○ 学力向上「知名チャレンジ」の取組は今後も継続し，週1回以上取り組ませるよう指導を徹底する。また，月末に各校の取組状況を確認し，計画と実施状況が異なる場合は学校を訪問して指導を行う。
○ また，以下の事項を管理職研修会や教務主任研修会で指導し，学校訪問の際に改善されているかどうか確認する。
〔小学校〕（国語科） 説明的文章において，文章と図表を結び付けて読み，必要な情報を取り出したり，筆者の要旨をまとめたりする指導を行う。
（算数科） 授業の終末に，演習問題や鹿児島学習定着度調査過去問題から本時の類問を1問抽出し，取り組ませる。
〔中学校〕（国語科） 自分の考えをまとめる際，教師が条件（キーワード，文字数等）を示し，定められた条件を満たして書くよう指導する。
（数学科） 授業の終末に，演習問題や鹿児島学習定着度調査過去問題から本時の類問を1問抽出し，取り組ませる。

【様式1】

児童数	53	小学校数	3
生徒数	51	中学校数	1
計	104	計	4

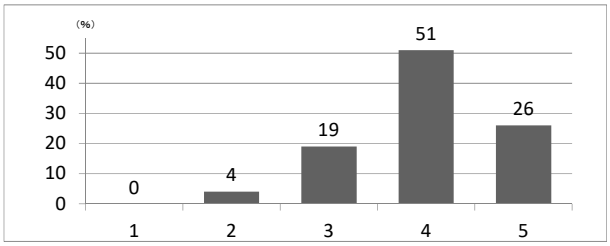
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

与論町教育委員会

（正答率分布グラフ，課題，改善策）

【小学校】〔国語〕

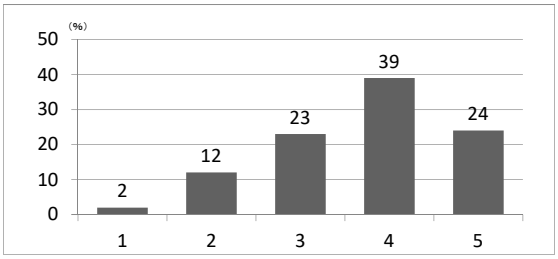
標準偏差	2.2



〈課題〉
・前回と比べて4，5段階が29ポイント増えて77%になっているとともに，1，2段階が22ポイント減って4%となり，改善が見られた。今後も，下位・中位層の児童の力を高める指導の継続が必要である。
・県平均と比べて，資料を使って話すことや，修飾と被修飾との関係を捉えること，漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。

【中学校】〔国語〕

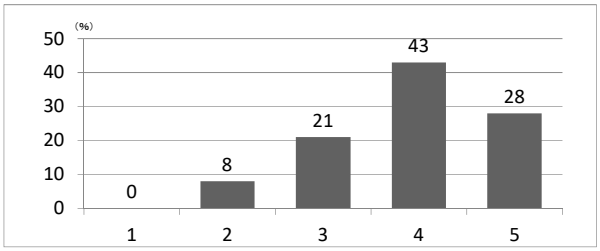
標準偏差	2.9



〈課題〉
・全体の平均正答数は高い状況にあるが，前回と比べると4，5段階が18ポイント減って63%になり，1，2段階が1ポイント増えて14%になった。今後，改善を進めていく必要がある。
・県平均と比べて，文脈の中における語句の意味を理解したり，文脈に即して漢字を正しく読んだりすること等に課題がある。

〔算数〕

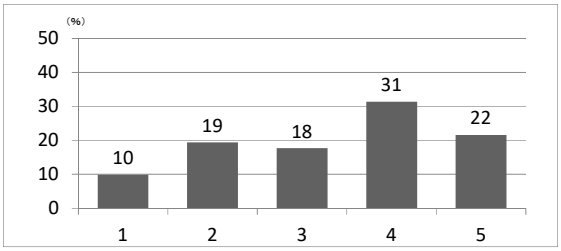
標準偏差	2.9



〈課題〉
・前回と比べて4，5段階が14ポイント増えて71%になっているとともに，1，2段階が7ポイント減って8%になっており，改善が見られる。今後も，下位・中位層の児童の力を高める指導の継続が必要である。
・県平均と比べて，量のもつ基本的な性質を理解することや，設定した問題に対して集めるべきデータを判断することに課題がある。

〔数学〕

標準偏差	4.2



〈課題〉
・4，5段階は50%台を維持できた一方，前回より3段階が減り，1，2段階が増えている。全体の平均正答数は高いが，前回の課題として挙げられた学力の二極化は更に進んでいる。
・県平均と比べて，ヒストグラムからの度数の読み取りや，数と式について事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。

【改善策】

①「日々の授業こそが学力の課題を解決する舞台である」という認識から，昨年度は，大島地区教育推進プランに基づく授業改善を確実に進めた。特に，「授業充実の3ポイント（目標の明確化，山場の工夫，確かめ・見届け）の定着」と，「各教科における書く活動の充実」について焦点化し，取り組んできた。
②これにより，今回の調査では，小・中学校ともに，国語及び算数・数学のどちらの教科も県平均と全国平均を上回ることができた。一方，小・中学校ともに，漢字の読み書きや，数量に関する基本的な事項の理解に課題があり，基礎的な内容の定着が十分ではない児童生徒が少なからず見られている。このことによって，今後，学力の二極化が進んでいくことが懸念される。実際に，中学校の数学科では既に二極化が顕著である。
③このため，今後は，個別最適な学びを充実させ，下位層の児童生徒を支援することと，上位・中位層の児童生徒を更に伸ばすことを同時に進めていく。

（今後の具体的な取組）
○ 学校に対して，引き続き，地区の教育推進プランに基づいた授業改善が進むよう指導と助言を行っていく。また，学校を訪問した際には，「児童生徒が良問を解けるようになる授業をデザインすること」と「本時の目標の達成度合いを問題演習により確かめること」の2点を教職員に対して繰り返し指導し，授業改善の取組と演習問題の取組が学力向上の両輪であるということについての認識を深めさせる。
○ これまでどおり，各学校から，「授業内に良問を解く時間や事後の解説を行う時間が確保されているかどうか」という点と，「どの教科で概ね何回ほど良問を解かせたか」という点を毎月報告させ，必要に応じて指導と助言を行う。
○ 学習内容を確実に定着させるための「指導の個別化」と，学習を深め，広げるための「学習の個性化」のためのツールとして，1人1台端末を積極的に活用させることにより，下位層の児童生徒を支援することと，上位・中位層の児童生徒を更に伸ばすことが同時に実現されるようにする。
○ また，以下の事項を管理職研修会や学力向上対策委員会等で指導し，改善されているかどうかを学校訪問の際に確認する。
〔小学校〕（国語科） 修飾と被修飾の関係を捉える指導や，学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う指導を充実させる。
（算数科） 量のもつ基本的な性質を理解したり，設定した問題に対して集めるべきデータを判断したりする指導を充実させる。
〔中学校〕（国語科） 文章の内容を理解させるために，文学的な文章を読んで考えたことなどを記録したり伝え合ったりする言語活動を重視させる。
（数学科） 目的に応じて式を変形したり，その意味を読み取ったりして，事柄が成り立つ理由を説明する活動を重視させる。